

岡本眸の春の句

立春の星の出揃ふ海の上  
起ちあがるとき春めける暈かな  
ガスの炎のひとつがつまり木々芽吹く  
愛されて淡雪の土手誰も行かぬ  
浮氷情にほだされゐるごとし

松岡隆子 抽